

Microsoft Entra ID および Microsoft 365 を使用した Cisco のコラボレーション

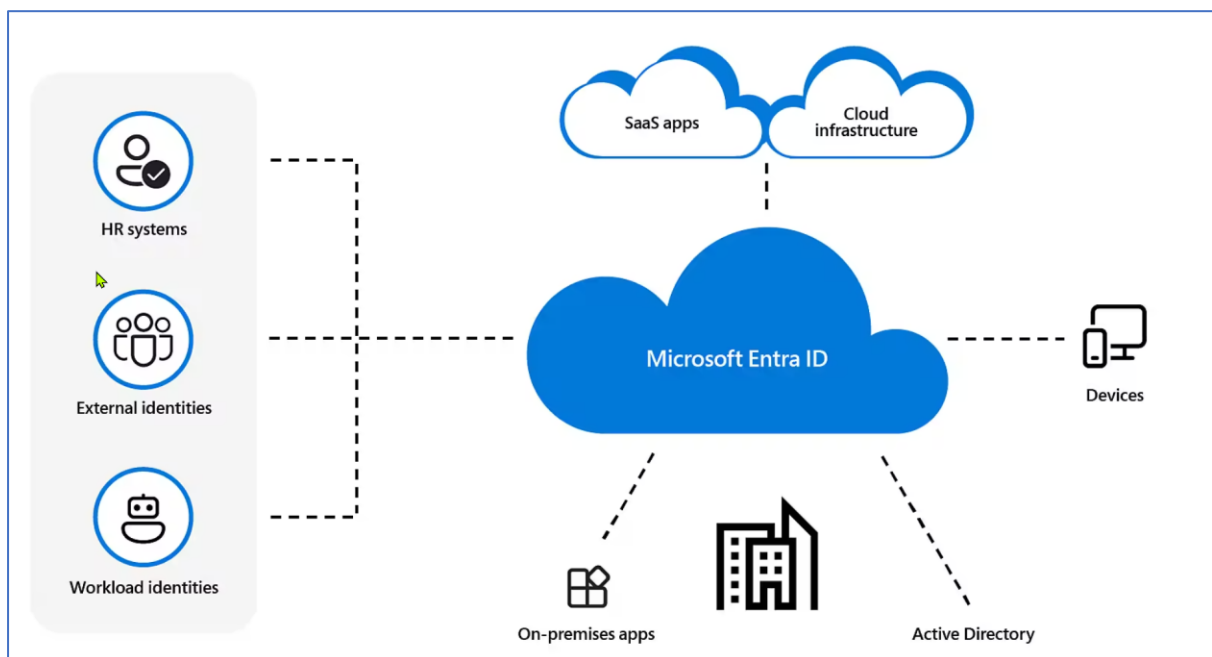
コンテンツ

Microsoft Entra ID および Microsoft 365 を使用した Cisco のコラボレーション.....	1
Microsoft Entra ID.....	2
Microsoft Entra ID および Intune を使用した Cisco Collaboration.....	3
Webex Microsoft Entra ID でのインテグレーション.....	5
Microsoft Entra ID ウィザード.....	5
Workspaces ディレクトリの同期.....	7
SCIM、SAML、OIDC プロトコルを使用した Microsoft Entra ID 手動統合.....	8
Microsoft Entra ID でのオンプレミスのインテグレーション.....	9
ユーザと連絡先のプロビジョニング.....	9
シングル サインオン.....	9
Webex および Meetings の Microsoft Teams インテグレーション.....	10
Microsoft Entra ID のネイティブ統合.....	11
OneDrive/SharePoint Online との ECM インテグレーション.....	12
Webex アプリの Microsoft 365 グループ.....	13
Webex と Exchange online のインテグレーション.....	14
Microsoft Teams への Webex Calling インテグレーション.....	15
Microsoft Teams への Webex の統合.....	16
Microsoft Teams への Jabber インテグレーション.....	18
Outlook 用 Webex ミーティング スケジューラ.....	19
Webex Social ログイン.....	20
Intune の Webex.....	22
Microsoft Teams の Webex ビデオ統合.....	24
MTR デバイス.....	26
オンプレミスの Active Directory を Microsoft Entra ID および M365 に移行する方法.....	29
ユーザ、グループ、デバイス管理をクラウドに移行するための Microsoft の戦略に は、次の手順が含まれます。.....	29
Identity に従う、コラボレーションをクラウドに移行するための Cisco の戦略:..	31



Cisco Collaboration ソリューションを Microsoft Entra ID ([旧称 Azure Active Directory](#)) および Microsoft 365 (M365) と統合することで、モダン ワークプレースのコラボレーションに対する包括的なアプローチを実現します。この統合により、企業は、オンプレミス、クラウド、ハイブリッド環境のいずれかでホストされているかに関係なく、必要なアプリケーションやリソースへの安全で簡単なアクセスを確保しながら、効果的にコミュニケーションするためのツールを提供できます。

Microsoft Entra ID



Microsoft Entra ID は、包括的なクラウドベースの ID およびアクセス管理ソリューションです。安全な認証、適応型アクセス コントロール、一元化された ID 管理を提供します。

オンプレミス、クラウド、ハイブリッドのいずれであっても、コラボレーション ソリューションの管理に不可欠な機能を提供します。

Microsoft Entra ID の主な特徴は次のとおりです。

セキュアなアダプティブ アクセス

強力な認証とリスクベースの適応型アクセス ポリシーを使用して、ユーザ エクスペリエンスを妥協することなく、リソースとデータへのアクセスを保護します。

シームレスなユーザ エクスペリエンス

マルチクラウド環境全体で迅速で簡単なサインイン エクスペリエンスを提供することで、ユーザの生産性を維持し、パスワード管理にかかる時間を減らし、生産性を向上させます。

統合型 ID 管理

クラウドかオンプレミスかを問わず、すべてのアイデンティティとすべてのアプリケーションへのアクセスを一元的に管理し、可視性とコントロールを向上させます。

Microsoft Entra ID および Intune を使用した Cisco Collaboration



Cisco のオンプレミス、ハイブリッド、クラウド コラボレーション ソリューションを監査した結果、Microsoft Entra ID と Intune は、顧客が利用する主要な ID およびデバイス管理ソリューションの 1 つであることがわかりました。

Microsoft Entra ID により、Cisco Collaboration は、さまざまなコラボレーション ワークロードを橋渡しする統合型 ID ソリューションを提供できるようになりました。これにより、組織の一貫性を確保し、接続元や使用するデバイスに関係なく、顧客ユーザを確実に識別することができます。

共通のお客様へのメリット：

- **コラボレーションの強化：** ユーザは Cisco の強力なコミュニケーションツールと Microsoft の生産性向上および ID スイートのスムーズな統合の恩恵を受け、異なるプラットフォーム間でのシームレスなコラボレーションを促進します。

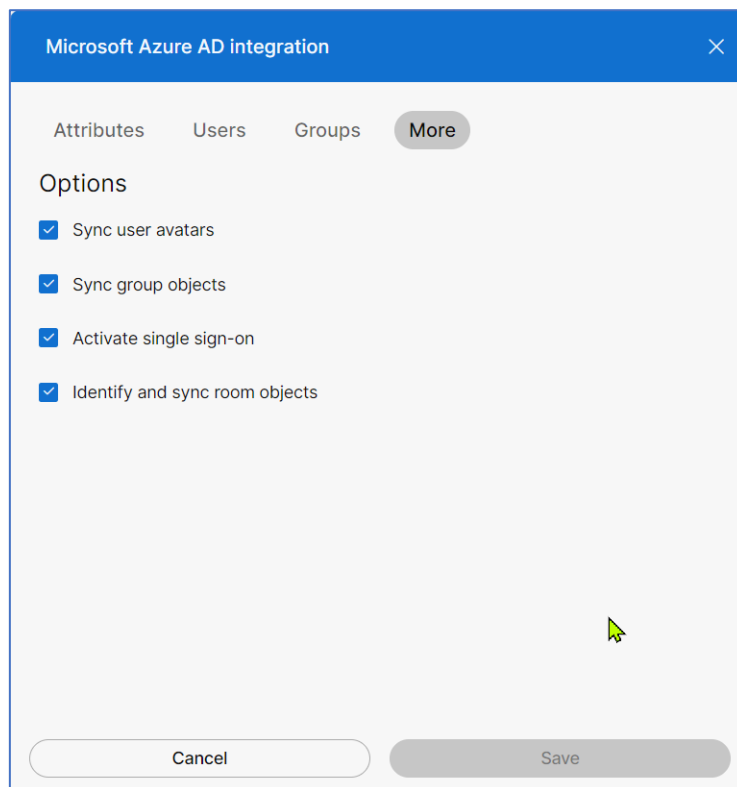
- **セキュリティの強化:** Microsoft Entra ID を Cisco および Microsoft 365 サービスと統合することで、組織のポリシーに準拠した安全で認証されたアクセスを保証します。
- **統合された管理:** IT 部門は、ユーザ ID、アクセス権、コラボレーション ツールを単一のインターフェイスで一元的に管理できるため、管理タスクを合理化できます。
- **柔軟性と選択肢:** 組織は単一のベンダーに限定されることなく、特定のニーズに最も適したコラボレーションおよび生産性向上ツールを選択することができます。
- **スケーラビリティ:** この統合された戦略は簡単に拡張して組織の成長をサポートし、新しいユーザとサービスに対応します。
- **コンプライアンス:** 一元化された ID 管理とアクセス制御により、組織はデータ保護とプライバシーに関連するコンプライアンス要件をより容易に満たすことができます。

さらに、[Duo Security](#) は、アプリケーションを保護し、ソリューションの全体的なセキュリティを高めるように設計された、多要素認証 (MFA) および安全なアクセス プロバイダとして、注目に値します。 Duo は、認証されたユーザだけが保護されたアプリケーションにアクセスできるようにします。 コラボレーション アプリケーションの領域では、Duo は「信頼しないこと、常に検証する」の原則に準拠したゼロ トラスト セキュリティ モデルの実装をサポートしています。

ユーザ検証、デバイスの信頼性、適応型認証、ポリシーの施行、可視性とモニタリング、セキュアなシングル サインオン、エンドツーエンドのセキュリティを提供することで、Duo はコラボレーション アプリケーションがゼロ トラスト フレームワークに準拠できるよう支援します。 これにより、リクエストのオリジンに関係なく、すべてのアクセスリクエストはアクセスを許可する前に完全に認証、承認、暗号化されます。 コラボレーション アプリケーションは、扱う機密情報や、組織内外のコミュニケーションを可能にする役割から、サイバー攻撃の標的になる可能性があります。このレベルのセキュリティは、特に重要です。

[Webex Extended Security Pack の顧客は、Duo およびその他の Cisco セキュリティ ツールを利用できます。](#)

Webex Microsoft Entra ID でのインテグレーション Microsoft Entra ID ウィザード



Webex コラボレーション管理者は、ユーザをプロビジョニングするための Microsoft Entra ID の構成や、シングル サインオン (SSO) を有効にするという課題に直面することがよくあります。主な理由は、Microsoft Entra ID の管理が IT 構造の責任の範囲内にならないためです。

また、コラボレーション アプリケーションを管理する際には、次のような標準プロトコルでは対応できない特定の ID タスクがあります。

- アバターの同期
- ドライラン
- 同期ログへのアクセス
- オンデマンドのユーザプロビジョニング
- 会議室オブジェクトのプロビジョニング
- 「マネージャー」など、他の属性を参照する複雑な属性

これらの課題に対処するために、Cisco は Control Hub から完全に操作できるウィザードを作成し、顧客のコラボレーション管理者のすべてのニーズに対応しました。

Cisco は Microsoft Graph API を活用することで、SCIM (クロスドメイン アイデンティティ管理システム)、SAML (セキュリティ アサーション マークアップ言語)、OIDC (OpenID Connect) などの標準プロトコルを補完し、Webex と Microsoft の間のユーザとデバイスの管理を簡素化します。エントラ ID。

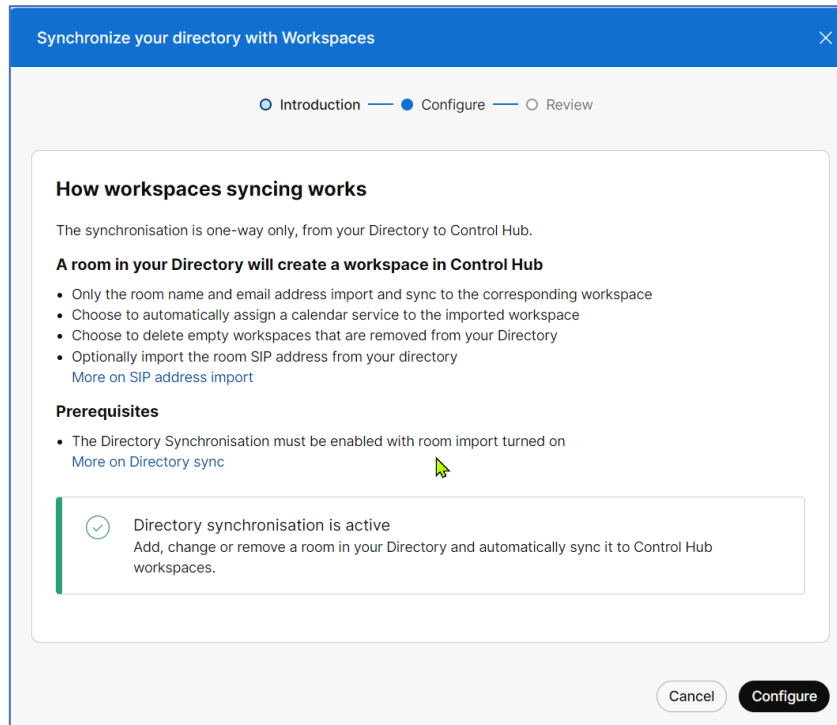


Control Hub Microsoft Entra ID ウィザードは、特に次のような分野で、お客様にいくつかの利点を提供します。

- **簡素化されたインテグレーション:** ウィザードは、Microsoft Entra ID と Webex の間のインテグレーションの設定プロセスを通じて、管理者をガイドします。SSO とユーザ プロビジョニングの技術的側面。
- **シングルサインオン (SSO):** Microsoft Entra ID との連携により、Microsoft Entra ID のサインイン情報を使用して SSO 機能をユーザに提供することができます。別のログインの詳細。
- **自動ユーザ プロビジョニングとプロビジョニング解除:** このインテグレーションは自動ユーザ アカウント プロビジョニングをサポートしています。新規ユーザが Microsoft Entra ID に追加されると、Webex アカウントが自動的に作成されます。逆も同様に、ユーザが組織を離れると、Webex アカウントが自動的に非アクティブ化されます。
- **セキュリティ:** SSO はユーザが覚える必要があるパスワードの数を減らすことでセキュリティを強化します。これにより、ユーザはフィッシング攻撃にさらされる可能性が減ります。さらに、多要素認証 (MFA) などの Microsoft Entra ID のセキュリティ機能を利用して、Webex サービスへのアクセスを保護できます。
- **一貫性:** Microsoft Entra ID との統合により、すべてのアプリケーションでユーザ属性とパーミッションを一貫して管理できます。これには Webex が含まれます。これにより、正確なアクセス権限が確保され、管理作業が軽減されます。
- **コンプライアンス:** 規制要件の対象となる組織は、このインテグレーションにより、Webex へのユーザ アクセスが組織の IT 環境全体を規定するのと同じコンプライアンス ポリシーに準拠することが保証されます。

- スケーラビリティ： 組織の規模が拡大するにつれて、インテグレーションはシームレスに拡張してユーザ数の増加に対応できるため、各ユーザのアカウントやアクセス権を手動で管理する必要がなくなります。

Workspaces ディレクトリの同期



一部の顧客は、Microsoft Teams および Cisco ビデオ デバイスを MTR モードで展開する場合、Microsoft M365 のリソースとして物理的な会議室を作成する必要があります。M365 と Control Hub の両方で作成して同じ作業を行うことは意味がありません。これを避けるため、当社では [Microsoft Entra ID ウィザード](#) と [ワークスペースディレクトリの同期](#) を利用してプロセスを簡素化しています。。これにより、プロセスが簡素化され、残りのタスクはデバイスを Control Hub のワークスペースに関連付けることだけになります。

これにより、[Cisco Spaces](#) のような他の製品を活用して、Microsoft プラットフォームですで行われている成果を活用することで、顧客に付加価値をもたらすことができます。Cisco Spaces は次世代のインドア ロケーション サービス プラットフォームであり、Cisco ビデオ デバイス内の既存の Wi-Fi インフラストラクチャとセンサーを利用して、物理的なスペース内での人々の行動に関するインサイトを提供します。Cisco の顧客が Cisco Webex と連携して Cisco Spaces を使用すると、ハイブリッドな作業環境で大きな利点を得られます。

Cisco Webex を Cisco Spaces および Microsoft Entra ID と統合することで、ほとんどの顧客の要求に応える独自の組み合わせが提供されます。

SCIM、SAML、OIDC プロトコルを使用した Microsoft Entra ID 手動統合



ユーザのカスタム属性やカスタマイズされた SAML シングル サインオンなど、高度なカスタマイズが必要な場合は、Microsoft Entra ID カタログで Cisco Webex アプリケーションを使用できます。

このアプローチは、Microsoft Entra ID から Webex へのインテグレーションでの一般的なリクエスト以外にも、SAML 2.0 および SCIM 1.1 プロトコルを使用する、ニッチな使用例に対応します。さらに、SCIM 2.0 および/または OIDC のようなプロトコルでのみ対応できる、さらに特殊な要件があります。これには、非ギャラリーアプリケーションを使用し、両方のプラットフォームで広範囲にカスタマイズするために、これらのプロトコルの全機能を探索する必要があります。

Microsoft Entra ID アプリケーションカタログの Cisco Webex アプリケーションにより、Control Hub Microsoft Entra ID ウィザードよりも柔軟な SCIM プロトコルを使用した [ユーザのプロビジョニング](#) が可能になります。また、[SAML シングルサインオン](#) を設定します。ここで、デフォルトの属性マッピングを変更できます。また、SAML ジャストインタイム (JIT) プロビジョニングとそのマッピングも可能にします。

Microsoft Entra ID カタログの Cisco Webex アプリケーションを使えば、ミーティングの [トラッキング コード](#) のような機能を提供するために重要な属性をカスタマイズすることができます。

Microsoft Entra ID でのオンプレミスのインテグレーション ユーザと連絡先のプロビジョニング



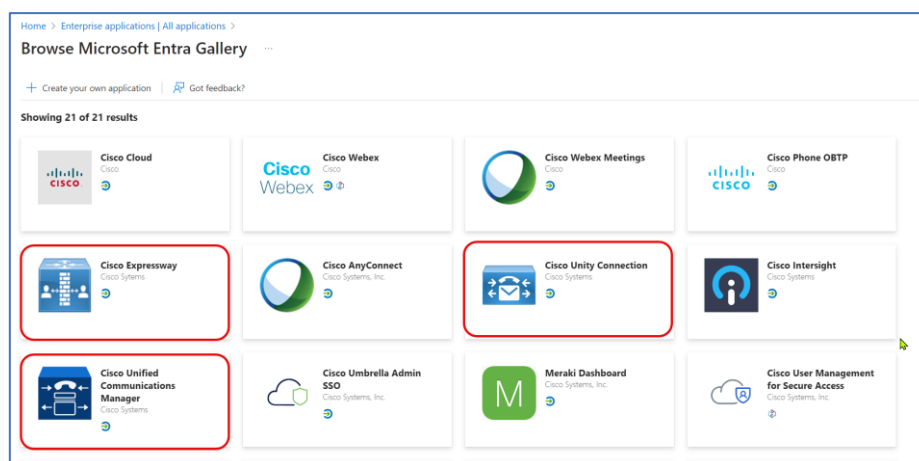
従来、オンプレミス製品でのユーザ ID の同期は LDAPv3 などのプロトコルを使用して行われてきましたが、インターネット上で安全に展開することはできません。

同時に、SCIM のようなプロトコルはオンプレミスのコラボレーション製品にアクセスする必要があります。しかし、これらの製品はインターネット経由では到達できないプライベートネットワーク内に展開されるため、このアクセスは不可能です。これらの 2 つの要素は、オンプレミスのコラボレーションシステムを Microsoft Entra ID と統合する際に大きな問題となります。

Webex は、CCUC ([Webex Cloud Connected UC](#)) などのオンプレミス製品内でハイブリッドコンポーネントを提供します。これにより、オンプレミス製品と Webex の間のブリッジを安全に確立できます。をインストールすることで、Webex 内の既存の ID 情報を活用できるようになるだけでなく、CCUC は Certificate Management、自動アップグレード、一元化されたトラブルシューティング、アナリティクス インサイト、グローバル オペレーションなどの他のハイブリッド サービスも Control Hub の単一パネルから提供しています。

この方法を使用することで、Microsoft Entra ID の Control Hub への接続を安全に利用し、これらのユーザの詳細をオンプレミス製品と同期できます。

シングル サインオン



オンプレミスのコラボレーション製品は、クラスタリングを利用することで、高可用性とスケーラビリティを達成します。これは、アイデンティティ プロバイダ (IdP) がシングル サインオン (SSO) の契約ごとに複数のノードをサポートすることを必要とします。最近、Microsoft と Cisco の緊密なコラボレーションを通じて、Microsoft Entra ID がこれらの機能を開発し、SAML 標準で定義されました。この進歩により、Cisco は [Cisco Unified Communication Manager](#)、[Cisco Unity Connections](#)、および [Cisco Expressway](#) を Microsoft Entra ID エンタープライズ アプリケーション カタログ内のアプリケーションとして導入しました。これにより、Cisco と Microsoft の間の SAML 契約の設定が容易になります。

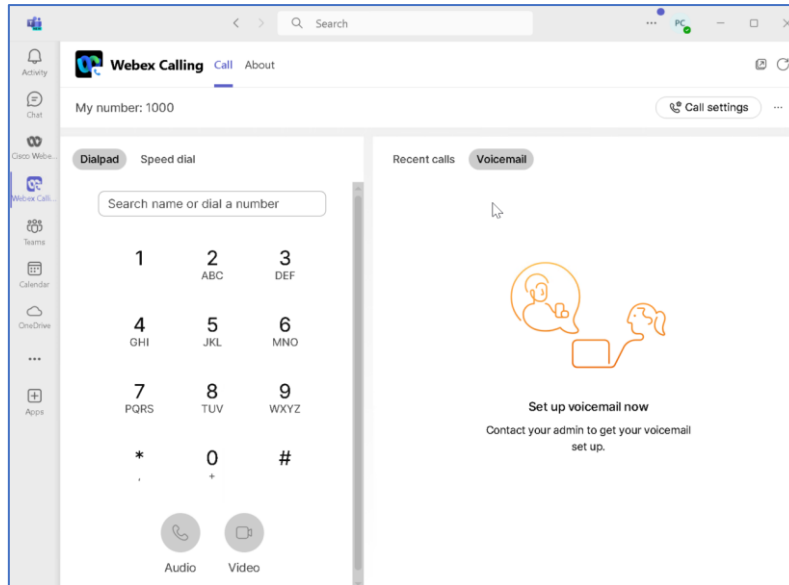
このインテグレーションの利点:

- **合理化されたアクセス:** ユーザは Microsoft Entra ID 資格情報を使用してオンプレミスの Cisco コラボレーションツールにログインできるため、アクセス管理が簡素化されます。
- **強化されたセキュリティ:** SSO により、パスワード関連のセキュリティ侵害の可能性を減らし、組織はすべてのサービスに一貫したアクセスポリシーを強制することができます。
- **IT 部門のオーバーヘッドの削減:** IT 部門は、ユーザのアイデンティティとアクセスを一元的に管理し、複数のシステムを管理する複雑さを軽減します。
- **ユーザ エクスペリエンスの向上:** 複数のコラボレーション ツールにアクセスする際の煩わしさが軽減され、生産性と満足度が向上しました。

要約すると、Microsoft Entra ID と Cisco のオンプレミス コラボレーション製品の間での統合は、クラスタ環境における SSO の複雑な課題を解決します。これにより、ユーザは一貫性のある安全なサインオン体験を持つことができ、IT 管理者はアイデンティティとアクセスを組織の通信インフラストラクチャ全体で効率的に管理できます。

Microsoft Entra ID カタログで作成されたアプリケーションでは、顧客は Cisco オンプレミス製品から SAML メタデータをアップロードし、Microsoft Entra ID アプリケーションでそれをアップロードするだけで済みます。これで完了です。

Webex および Meetings の Microsoft Teams インテグレーション シームレスな ID インテグレーション



Cisco Collaboration の Microsoft Teams クライアントへの統合により、顧客はユーザに複数のプラットフォーム（Cisco と Microsoft）での認証を要求し、結果として最適なエクスペリエンスを得られないという課題に直面しています。

Microsoft Teams アプリケーションの最新の改善により、Cisco は WebView2 フレームワークを活用して、クロスプラットフォーム認証の問題に対するソリューションを作成できます。これにより、Cisco は Microsoft Teams アプリケーションへの最初の認証から情報をキャプチャし、Cisco Collaboration プラットフォームへの再認証の必要性を防ぐことができます。この機能強化により、ユーザの満足度が向上し、当社の顧客のユーザによる採用が促進されます。

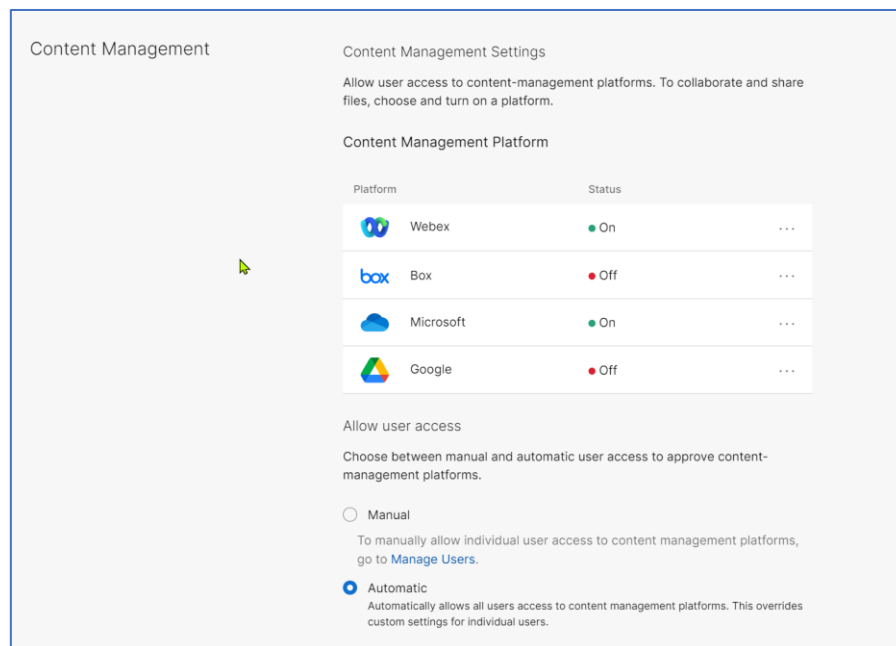
Microsoft Entra ID のネイティブ統合

Name	Object ID	Application ID	Homepage URL	Created on
Cisco Webex Video Integration for MS Teams	1696a038-7a7e-40f9-96a0-1c4a7965a0c2	98a797c-3aa9-4836-919e-e03a15d3a2a1	https://cisco.com/go/webex-vent	25/04/2022
Webex Enterprise Content Management	2eac837-a70e-4e64-b648-c8a8d389846	40830e92-8323-4b43-abd5-ca861d39e75	https://www.webex.com/downloads	26/04/2022
Cisco Webex Office 365 Groups	47f10d9-ae05-4473-a245-37d1a3e7e45	c4a809e1-ae3e-47f5-8514-2a4e69a305c	http://www.webex.com	09/09/2021
Webex	57531b16-8484-43d2-b0b4-08aae551855	2238e4f0-d861-4867-ac7f-9ecc7413846		25/04/2022
Cisco Expressway Extranet	5486f8e4-0a80-47af-beae-607b0ac02067	6730464-e065-474a-891f-9e13e544681	https://www.cisco.com/*?metaData=ciscoexpress	04/04/2024
Cisco Webex for Intune	6328f8e6-8389-43a6-b689-321e162d1d4	ee0980e-011c-4644-9c4c-c80420e0a818	https://help.webex.com/absdfb	18/07/2024
Cisco Webex Identity Integration	63b71b3f5e-46a6-9187-9953a6a07a73	9088042e-114b-4e68-82e4-ee864a7a3ae	http://www.webex.com	13/03/2024
Azure AD Cluster Identity ID	63b71b3f5e-46a6-9187-9953a6a07a73	369f579e-5c0b-4161-9666-8c4d93993fd	https://graphexplorer.azure.com/4443/ntsp/saml5...	21/03/2024
Cisco Webex Meetings	7990b5f0-9f93-4ee0-894e-c4e52c2e0d8e	8905220-e55f-434f-9868-d7980c9e182		03/11/2020
Cisco Webex Teams	854a259-ae04-47f5-8619-16f13604021	1127443c-954b-4b70-b355-3777ca13049e	https://www.webex.com	18/07/2022
Webex Calendar Service	854a259-ae04-47f5-8619-16f13604021	1e39d33-c03d-450a-9e3e-55d8d3b6890	https://www.cisco.com/go/hybrid-services-calendar	25/04/2022
Graph Explorer (official app)	c378f733-702b-4a68-864f-4445c47743	c4b9805-d99f-4801-a3a0-b748a7232064	https://developer.microsoft.com/en-us/graph/g...	15/12/2020
Cisco Webex Identity	e552967-6295-413b-8152-62c5a2998c0f	7d39f0b-d56f-480a-811e-03a7e94664cf	https://developer.webex.com/docs/Consumer/identity	13/03/2024
Cisco Unity Connection uCMA	69c7e78-9a23-465b-b66a-1659a974199e	86268a7f-3aca-407a-811e-c9a7790ca145	https://cisco.com/ucsp/bam/SSO/ucma/FCM...	04/04/2024
Cisco Webex Meetings (external)	4448b0c10f-4155-8299-e9d310307022	6a05320e-1113-46e8-af7a-a156a3a0269	https://www.webex.com/*?metaData=webex@v19.3p...	25/04/2022
Cisco Webex Scheduler	1a20320c-030a-404a-89a9-e96344c7979	7a9f6319-af04-404b-9006-1220356188f5	https://www.webex.com	26/04/2022
Cisco Webex Connect Your Calendar	fe7a3c2-490e-480a-807a-4a8023c2b35	96204440-5c81-4a66-8353-e96d1653e63	https://www.webex.com	25/04/2022

Cisco Collaboration 製品と Microsoft Entra ID の間には他にも多くの連携があります。Microsoft Entra ID で Cisco が作成した多くのアプリケーションは、Microsoft Graph API を利用して、インテグレーションを自動的に認証して構成しま

す。これにより、Cisco と Microsoft Entra ID プラットフォームを通じてアクセス可能な Microsoft 製品との統合が強化されます。

OneDrive/SharePoint Online との ECM インテグレーション



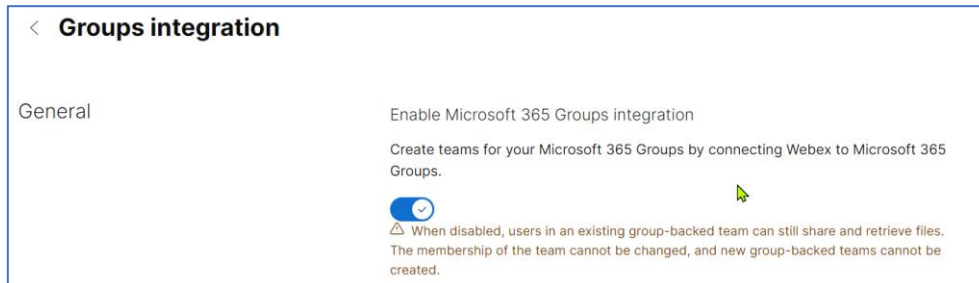
[エンタープライズコンテンツ管理](#) ECM システムとの統合により、OneDrive/SharePoint をファイルのストレージおよび統合ポイントとして使用することができます。Webex を OneDrive および SharePoint と統合することで、ユーザは SSO インターフェイス内で直接ファイルにアクセスし、ファイルを共有し、共同作業を行うことができます。つまり、OneDrive または SharePoint に保存されているドキュメント、スプレッドシート、プレゼンテーション、その他の重要なファイルを、簡単に Webex スペースのワークフローに組み込むことができます。ユーザは、異なるアプリケーション間で切り替える必要なく、リアルタイムでのドキュメントの共同編集、ミーティング中のコンテンツ共有、すべての共同作業者の連携を確保することができます。

さらに [Cisco Devices](#)から OneDrive へのアクセスが可能になります。この統合により、コミュニケーションとドキュメント管理の一元化された場所が生まれ、生産性が向上します。

OneDrive は、個人の Microsoft アカウントに関連付けられた個人用のクラウド ストレージを提供し、どこからでも個人の作業ファイルを保存してアクセスするためのスペースを提供します。これとは対照的に、SharePoint はチームのコラボレーション用に設計されており、組織内でイントラネットサイトを構築し、コンテンツ管理システムを確立するためのプラットフォームとして機能します。これらのサービスを Webex と統合すると、チームはコンテンツを安全に保存、管理することができます。また、仮想ミーティングやコラボレーション セッション中にドキュメントに簡単にアクセスできるようになります。さらに、このインテグレーションにより

ファイル権限とセキュリティ設定の整合性が維持されるため、チームが Webex でコラボレーションする際に機密情報の安全性が確保されます。

Webex アプリの Microsoft 365 グループ



この [インテグレーション](#) により、Webex ユーザは Webex でチームを形成すると同時に、Microsoft 365 でグループを作成できるようになります。

Webex ハイブリッド グループと Microsoft Office 365 のインテグレーションは、Cisco の高度なコミュニケーション技術と Microsoft の包括的な生産性向上スイートの強力な融合であり、チーム コラボレーションを強化するために特別に設計されています。Webex を Office 365 とリンクすることで、組織は Microsoft 365 グループごとに専用の Webex アプリ スペースを自動的に確立できます。その結果、Microsoft 365 でグループが開始されるたびに並列の Webex スペースが構成され、2 つのプラットフォーム間のシームレスなコミュニケーションとコラボレーションが促進されます。

ユーザは、メッセージング、ファイル共有、ホワイトボード、永続コンテンツなど、Webex アプリの機能を最大限に活用しながら、共有メールボックス、カレンダー、SharePoint に保存されたファイルなど、Microsoft 365 グループのリソースに同時にアクセスできます。メンバーは、Office 365 のコラボレーション ツールから Webex アプリのリアルタイム コミュニケーション機能に、ワークフローを中断することなく簡単に移行できます。このスムーズな統合は、統一されたユーザ エクスペリエンスを提供し、複数のコラボレーション プラットフォーム間を移動する際の複雑さを軽減するために不可欠です。

ハイブリッド グループ モデルにより、Microsoft 365 グループのメンバーシップの更新が対応する Webex アプリ スペースと自動的に同期され、両方のシステムで最新の名簿が維持されます。さらに、Microsoft 365 グループ内で開催されるミーティングは、優れたビデオ会議機能を活用して、Webex プラットフォームで主催できます。この統合は、より効率的でコラボレーション的な作業環境を促進するだけでなく、Webex と Microsoft 365 の長所を活用して、組織内のさまざまなコラボレーションの要求を満たす多目的なツール スイートを提供します。Webex と Microsoft 365 グループの連携機能を使えば、チームがリモートか従来のオフィスにいるかに関係なく、より効果的にコミュニケーションを取り、共同作業を行うことができます。

Webex と Exchange online のインテグレーション



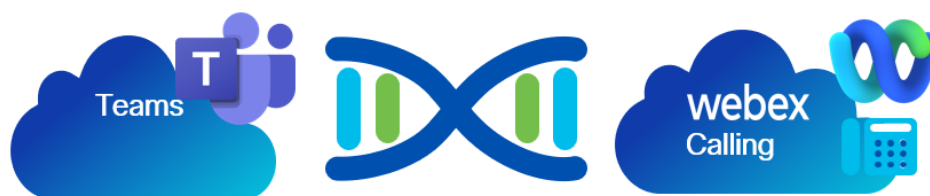
の統合により、 [Webex と Microsoft 365](#) ユーザ カレンダーに対して を使用すると、Webex と Exchange Online がシームレスにコラボレーションできます。 組織は、仮想ミーティングを管理するためのより効率的でユーザ フレンドリーな統一されたアプローチの恩恵を受けることができ、コラボレーションと生産性が向上します。ユーザは、次のカレンダー アプリから Webex ミーティングを簡単にスケジュールして参加できます。Webex アプリまたは Cisco ビデオ デバイスでシングル ボタン プレス (OBTP) で表示されます。

このインテグレーションには、生産性を向上させ、ミーティングのスケジュールと管理を合理化できるいくつかの利点があります。 主なメリットを次に示します。

- **シームレスなスケジュール:** ユーザは Exchange Online カレンダーから直接 Webex ミーティングをスケジュールできるため、アプリケーションを切り替える必要がありません。 このインテグレーションにより、ミーティングの設定が簡素化され、時間と労力を節約できます。
- **カレンダーの同期:** 時間調整やキャンセルなど、Exchange Online カレンダーでのミーティングへの変更は、自動的に Webex ミーティング スケジュールに反映されます。 この同期により、すべての参加者が最新の情報を持つことができます。
- **空き状況の表示:** Exchange Online を通じて Webex ミーティングを開催する場合、開催者は参加者の空き状況を確認し、全員にとって都合の良い時間を選択し、スケジュールの競合を減らすことができます。
- **ワンクリック参加:** 参加者は、Exchange Online カレンダーの招待状からシングル クリックで Webex ミーティングに参加できます。ミーティング ID やパスワードを入力する必要がなくなり、ミーティングにすばやくアクセスできます。
- **ミーティングリマインダ:** Exchange Online カレンダーは、参加者が時間通りに参加できるように、今後の Webex ミーティングの自動リマインダを送信するように構成できます。
- **モバイル アクセス:** Exchange Online カレンダーはモバイル デバイスからアクセスできるため、ユーザは移動しながら Webex ミーティングをスケジュール、変更、参加できます。 これは、リモート ワーカーや出張の多いユーザにとって特に便利です。

- **一元管理:** IT 管理者は Exchange Online 管理者ポータルから Webex インテグレーション設定を集中管理できるため、展開と継続的なメンテナンスが容易になります。
- **強化されたセキュリティ:** Webex と Exchange Online のインテグレーションは、両方のプラットフォームのセキュリティ機能を活用して、ミーティングのスケジュールと主催のための安全な環境を確保します。
- **エクスペリエンスのカスタマイズ:** ユーザは Exchange Online カレンダーからスケジュールする際に、定期的なミーティングの設定、ビデオ レイアウトの選択など、ミーティング設定をカスタマイズできます。
- **スケーラビリティ:** Webex と Exchange Online の堅牢なインフラストラクチャにより、組織の規模拡大に合わせてインテグレーションを拡張し、より多くのユーザやミーティングに対応できます。

Microsoft Teams への Webex Calling インテグレーション



Microsoft Teams 版 [Webex Calling](#) により、ユーザは Microsoft Teams アプリケーション内で直接 Webex のエンタープライズクラスの通話体験にアクセスできます。このインテグレーションは、Webex の堅牢な通話機能と Teams のコラボレーション機能を組み合わせることで、ユニファイド コミュニケーション エクスペリエンスを提供するように設計されています。

このインテグレーションで利用できる機能には次のものが含まれます。

- **Teams からの直通通話:** 組織がテレフォニー インフラストラクチャとして Webex Calling を使用している場合、ユーザは Microsoft Teams インターフェイス内で直接 PSTN (公衆交換電話網) 通話を受発信できます。
- **統合連絡先リスト:** Webex Calling からの連絡先は Microsoft Teams と同期でき、ユーザは発信用の単一の統合された連絡先リストを管理できます。
- **通話コントロール機能:** 通話の保留、転送、転送、ボイスメールへのアクセスなどの通話コントロール機能のセットを Teams 内で利用でき、スムーズな通話管理を実現します。
- **プレゼンスの同期:** ユーザのプレゼンス ステータス (対応可能、取り込み中、通話中など) は、Webex Calling と Microsoft Teams の間で同期されるため、両方のプラットフォームで正確な可用性情報を提供できます。

- **一貫性のあるユーザエクスペリエンス:** Webex Calling を Teams に統合することで、ユーザはコラボレーションやテレフォニーのために異なるアプリケーションを切り替える必要なく、一貫性のあるエクスペリエンスを享受することができます。
- **集中管理:** IT 管理者は、テレフォニーサービスとユーザプロビジョニングを 1 か所から集中管理できるため、管理が合理化され、異なるシステムの管理の複雑さが軽減されます。
- **生産性の向上:** ユーザが 1 日の大半の時間を過ごすコラボレーションプラットフォームに通話機能を統合することで、ツールを切り替える時間が短縮され、生産性が向上します。
- **スケーラビリティと信頼性:** Webex Calling は、そのスケーラビリティと信頼性で有名です。これらの品質を Microsoft Teams と統合することで、組織はプライマリコラボレーションプラットフォーム内のテレフォニーサービスを強化できます。

Microsoft Teams への Webex の統合



Microsoft Teams への [Webex Meetings インテグレーション](#) は、ユーザが Cisco の Webex Meetings と Microsoft Teams プラットフォームを相互接続できるようにする機能です。このインテグレーションは、メッセージングに Microsoft Teams アプリケーションを使用することに慣れているが、ビデオ会議やリアルタイム コラボレーションのニーズには Webex Meetings を使用したいユーザに対し、シームレスなコラボレーションとコミュニケーションを促進します。

このインテグレーションにより、Microsoft Teams ユーザは次のことが可能になります。

- **簡単なミーティング作成:** ユーザは Microsoft Teams 内から直接、Webex Meetings をスケジュール、開始、および参加することができます。これはボット コマンドまたは Teams チャンネル内のタブを使用して行うことができ、ミーティングの設定プロセスを簡素化します。
- **カレンダーの同期:** 連携はユーザのカレンダーと同期します。Webex ミーティング がスケジュールされると、カレンダーの Teams

ミーティングの横に表示され、今後のすべてのミーティングの一元的なビューを提供します。

- **ワンクリック参加:** インテグレーションにより、ユーザは Webex ミーティングが開始される時に Microsoft Teams 内で通知を受け取り、ワンクリックで参加できます。
- **ネイティブなインテグレーション:** ユーザは、ネイティブの Teams 機能を活用して Webex Meetings を作成、管理できます。これにより、Teams を定期的使用するユーザにとって、エクスペリエンスがよりスムーズで親しみやすくなります。
- **直感的なインターフェイス:** このインテグレーションにより、Teams 環境内で Webex Meetings の設定と機能を管理するための直感的なインターフェイスが提供されます。

顧客の観点から見ると、ユーザには大きなメリットがあります。

- **統合されたエクスペリエンス:** ユーザは、異なるアプリケーションやプラットフォーム間で切り替えることなく、Microsoft のチームコラボレーションツールと Cisco の強力なビデオ会議機能の両方のメリットを享受できます。
- **生産性の向上:** インテグレーションにより、ミーティング設定プロセスが合理化され、単一のインターフェイスからのミーティングの管理が容易になることで、手間が減り、時間が節約され、手間が減ります。
- **柔軟性:** 組織はニーズに適したツールを選択できるため、従業員はコラボレーションに Microsoft Teams を使い続ける場合でも、Webex の強力なミーティング機能にアクセスできます。
- **リーチの拡大:** Webex Meetings と Teams を連携させることで、組織は異なるプラットフォームを使用している外部のパートナー、クライアント、ベンダーとより効果的にコラボレーションを行うことができます。
- **一貫したユーザ エクスペリエンス:** Microsoft Teams に慣れているユーザは、新しいツールを学習することなく、Webex Meetings をスケジュールして参加できます。これにより、導入が容易になり、トレーニングの回数が減ります。
- **改善されたワークフロー:** Webex Meetings を Teams に統合すると、コミュニケーションとコラボレーションのワークフローが合理化され、プロジェクトの進行と意思決定の効率が向上します。

- **セキュリティとコンプライアンス:** Webex Meetings はその強力なセキュリティとコンプライアンス機能で知られています。この機能は Microsoft Teams と統合されている場合でもそのまま利用できるため、組織は機密情報を扱う際にも安心して利用できます。

全体として、Microsoft Teams への Webex Meetings インテグレーションは、Cisco と Microsoft の両方のコラボレーション プラットフォームの長所を活用する、シームレスで安全で効率的なミーティング エクスペリエンスを提供するように設計されています。

Microsoft Teams への Jabber インテグレーション



[Jabber for Microsoft Teams](#) を使えば、ユーザは Microsoft Teams アプリケーション内からエンタープライズレベルのオンプレミス通話機能に直接アクセスできます。Jabber アプリをインストールすると、Teams 内から Jabber で強化された音声とビデオ コールを開始できます。

顧客は次のような利点を確認できます。

- **Microsoft Teams 内で簡単通話:** Windows、Mac、Android、iPhone、iPad、またはウェブブラウザ経由で、ダイヤルパッドを使用して発信したり、チャットの会話から通話に変換したりできます。ディレクトリ同期された連絡先と Outlook 連絡先、またはその他のカスタム連絡先に発信し、スピードダイヤルとして追加します。
- **権限:** この Cisco アプリを初めて使用する時（または Microsoft Teams からサインアウトする場合）、アプリが連絡先を検索して Microsoft Teams と対話するための権限を付与するようにプロンプトが表示されます。また、ユーザ ID を確認するために、ユーザ名とパスワードの入力が求められます。
- **Jabber 仮想デスクトップインフラストラクチャ (VDI):** Microsoft Teams の Jabber 通話インテグレーションは VDI 環境と互換性があります。VDI セットアップでは、Cisco Jabber と Microsoft Teams の両方が同じ仮想マシン内で実行される必要があります。さらに、Jabber は Jabber VDI エージェントとクライアントの両方がインストールされた VDI モードで展開する必要があります。

Outlook 用 Webex ミーティング スケジューラ



[Webex スケジューラ](#) を使用すると、Microsoft 365 ユーザはデスクトップ、ウェブ、モバイルアプリケーション Webex またはパーソナル会議室のミーティングをスケジュールすることができます。

Outlook 用 Webex ミーティング スケジューラを使用すると、ユーザは Webex ミーティングを Microsoft Outlook 内で直接スケジュール、開始、管理できます。このインテグレーションは、多くのビジネス環境で広く利用されているメールおよびカレンダーアプリケーションである Outlook の使い慣れたインターフェイスを使用して、仮想ミーティングの管理を簡素化するように設計されています。

Webex Outlook 用ミーティングスケジューラ的主要な機能と利点は次のとおりです。

- **便利なスケジュール設定:** ユーザは Outlook で通常のカレンダー イベントを作成するのと同じくらい簡単に、Webex ミーティングをスケジュールできます。このアドインにより、Webex ミーティングの詳細情報（リンク、ミーティング番号、パスワードなど）がカレンダーの招待状に自動的に挿入されます。
- **ワンクリックミーティング開始:** 主催者は Outlook カレンダーまたは予定のリマインダから 1 回クリックするだけで、スケジュールされた Webex ミーティングを開始できます。これにより、ミーティング開始のプロセスが合理化されます。
- **Outlook カレンダーとの統合:** Webex ミーティング スケジューラは Outlook カレンダーと完全に統合されています。これにより、ユーザの議題の完全な概要を示すために、スケジュールされたすべての Webex ミーティングが他の予定と一緒に表示されます。
- **簡単に出席者を招待:** 主催者は Outlook の連絡先から、またはメールアドレスを直接入力することで、簡単に簡単に出席者を追加できます。Webex ミーティングの重要な詳細を含む招待状と一緒に。
- **カスタマイズ可能なミーティング オプション:** ユーザはロビーの有効化、登録の要求、入退室トーンの設定、開始時にミーティングをロックするかどうかの決定など、さまざまなミーティング設定をスケジュール時にカスタマイズできます。
- **定期的なミーティングのサポート:** このアドインは Outlook 内での定期的な Webex ミーティングのセットアップをサポートします。定期的なチー

ムの集まり、毎月のチェックイン、その他定期的に行われるイベントに最適です。

- **アプリケーションを切り替える必要がありません**：ミーティングスケジューラを使えば、ユーザは Webex と Outlook を切り替えることなくミーティングを計画、管理できるため、時間を節約し、エラーを最小限に抑えることができます。
- **クロスプラットフォーム互換性**：Outlook 用 Webex ミーティングスケジューラは、Windows および Mac、およびウェブ上の Outlook と互換性があるため、さまざまなオペレーティング システムやプラットフォームで使用できます。
- **ミーティングコントロールへの簡単アクセス**：主催者は Outlook 内で直接ミーティングコントロールを管理し、ミーティングのキャンセルや更新、設定の変更、更新された招待状の再送を必要に応じて行うことができます。
- **セキュリティ**：この連携は Webex と Outlook の両方のセキュリティプロトコルに準拠しているため、ミーティングデータの保護と機密性が保証されます。

Webex Social ログイン



このインテグレーションにより、[ソーシャル サインイン認証](#) が可能になり、ユーザは Microsoft/Office 365 アカウントを使って Webex にログインできるようになります。Webex Online および Webex Enterprise のお客様は、Microsoft の個人アカウントまたは職場アカウントを使用して、ユーザのセルフ登録/認証を容易に行うことができます。

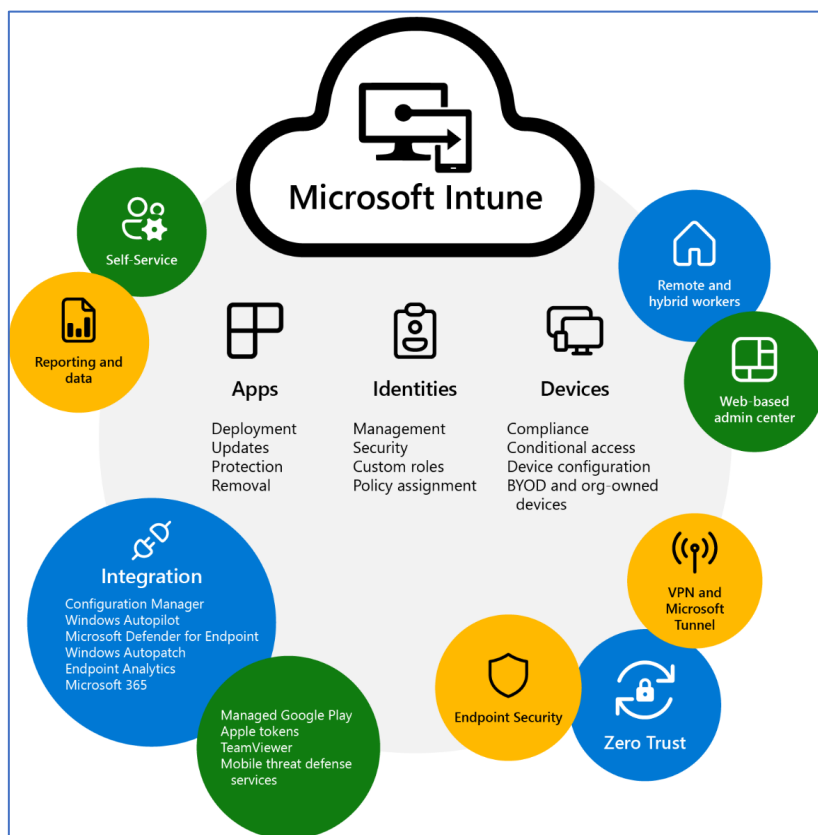
この機能により、ソーシャル メディア アカウントを使用したシングル サインオン (SSO) も有効になり、Webex サービスのユーザは、コンシューマー Webex 組織またはエンタープライズ顧客組織のどちらかに関係なく、既存のソーシャル メディア資格情報を使用してログインできます。。

Webex ソーシャル ログインにはいくつかの利点があります。

- **利便性**：ユーザは追加のユーザ名やパスワードを覚える必要なく、素早く簡単に Webex にログインできます。これは、頻繁にソーシャル メディア プラットフォームを使用し、すでにログインしているユーザにとって特に便利です。

- **簡素化されたアカウント管理:** ソーシャル ログインにより、ユーザが管理する資格情報が 1 つ減りました。これにより、複数のユーザ名とパスワードを追跡することに伴う認知的負担を軽減できます。
- **迅速なオンボーディング:** 新規ユーザは Webex を使用するとより迅速に開始できます。これは、従来のアカウント作成手順を回避し、代わりに既存のソーシャル メディア資格情報を使用して新しい Webex アカウントをセットアップできるためです。
- **パスワード入力の手間の軽減:** ソーシャル ログインでは、Webex の固有なパスワードを新しく作成して記憶する必要がなくなります。これにより、脆弱なパスワードや再使用したパスワードの使用に伴う「パスワード疲れ」のリスクやセキュリティ上の懸念を減らすことができます。
- **ユーザ エクスペリエンスの強化:** ソーシャル ログインでサインインプロセスが合理化されたことで、複数の認証手順なしでサービスに簡単にアクセスできるようになり、ユーザ エクスペリエンス全体が向上しました。
- **セキュリティの強化:** 適切に実装すると、ソーシャル ログインのセキュリティを強化できます。多くのソーシャル メディア プラットフォームには、ユーザが Webex にログインする際に利用できる 2 要素認証 (2FA) などの強力なセキュリティ機能が備わっています。
- **モバイル対応:** 多くのユーザがモバイル端末でソーシャルメディアアカウントにログインしたままであることを考えると、ソーシャルログインにより、スマートフォンやタブレットから Webex サービスに簡単にアクセスでき、手動で資格情報を入力する必要がなくなります。
- **サポート コストの削減:** アカウント復元やパスワードのリセットはソーシャル メディア プラットフォームによって管理されるため、サポート コストを削減できます。
- **登録率と変換率の向上:** ソーシャル ログインにより、登録を必要とするサービスの変換率が向上し、サインアップがより迅速かつ簡単になり、ユーザによる登録が促進されます。

Intune の Webex



[Webex App Intune](#) は、Intune SDK を利用して、Intune により設定されたアプリポリシーを強制します。ユーザは iOS または Android の通常の App Store から、Intune 用の Webex アプリをダウンロードできます。Webex アプリは Intune SDK を使用することで、顧客の情報を保護するように設計された、構成されたアプリケーション保護ポリシー コントロールを受け取ります。

通常、Intune 用 Webex アプリは、顧客が、ユーザのデバイスの所有権を持たない、会社の IP (知的所有権) を保護したい環境で展開されます。これは BYoD (Bring Your Own Device) とも呼ばれます。

Microsoft Intune は、モバイル デバイス管理 (MDM) とモバイル アプリケーション管理 (MAM) に特化したクラウドベースのサービスです。これは Microsoft の Enterprise Mobility + Security (EMS) スイートの一部であり、従業員が会社のデータにアクセスするために使用するモバイル端末やアプリケーションを組織が管理できるようにします。Intune は Microsoft Entra ID および Microsoft Purview Information Protection と統合され、携帯電話、タブレット、ラップトップなど、さまざまなデバイスで企業データを保護するための包括的なソリューションを提供します。

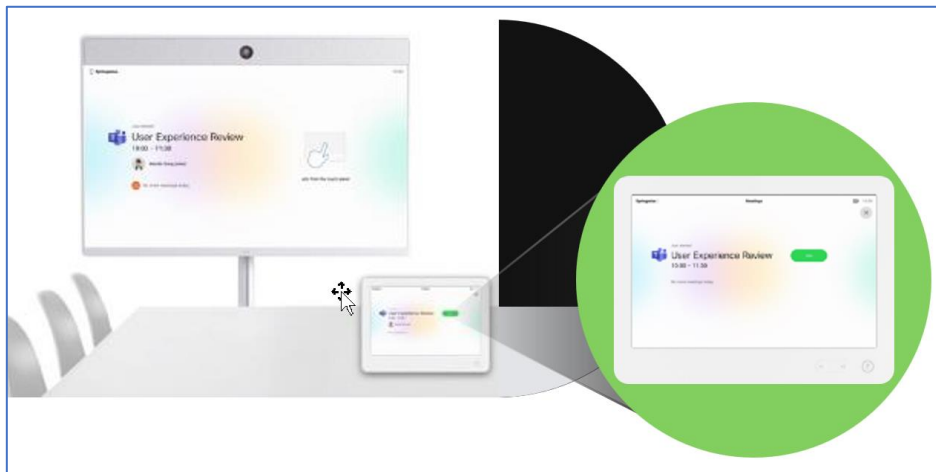


Intune 用 Webex アプリでは、デバイスを直接管理する必要なく、Intune の機能を利用できます。 Webex アプリには次の利点があります。

- **強化されたセキュリティ:** Intune は、IT 管理者が Webex アプリで実装できる高度なセキュリティコントロールを提供します。これには、機密情報を確実に保護するためのデータアクセスや共有の管理が含まれます。
- **端末管理:** 組織は、個人所有の端末と会社所有の端末の両方で Webex アプリケーションを管理できます。 Intune を使用すると、管理者は、PIN を要求する、またはデバイスが Webex アプリにアクセスする前に企業の標準を満たしていることを確認するなどのポリシーを強制できます。
- **条件付きアクセス:** Intune では、管理者はユーザ ロール、デバイスコンプライアンス、ネットワークの場所、リスク プロファイルなどの基準に基づいて、Webex へのアクセスを制限または許可する条件付きアクセス ポリシーを設定できます。
- **データ損失防止 DLP:** 管理者はポリシーを設定してデータ漏洩を防ぐことができます。たとえば、Webex アプリと個人用アプリケーション間でのコピー アンド ペースト操作を制限したり、個人用ストレージへの会社ドキュメントの保存をブロックしたりできます。
- **アプリ構成:** Intune を使用すると、展開前に Webex アプリ設定を一元的に構成できます。これにはデフォルトの基本設定、ログイン資格情報、サーバ設定などが含まれます。
- **選択的ワイプ:** デバイスの紛失や盗難、または従業員の退職などの場合、Intune では Webex アプリから個人データに影響を与えることなく企業データを選択的にワイプできます。
- **コンプライアンス レポート:** Intune には、監査とコンプライアンスに不可欠な、企業ポリシーへのデバイスやアプリケーションのコンプライアンスの監視を支援するレポート ツールが用意されています。
- **合理化された展開:** Intune はさまざまなデバイスのユーザへの Webex アプリの配布を合理化し、アプリのバージョンと更新の一貫性を確保します。

- **ユーザ エクスペリエンス:** 従業員は好みのデバイスを仕事に使用することができます。その際、Webex へのアクセスは安全で、監視されています。これは自分のデバイスの使用 (BYOD) ポリシーに準拠しており、ユーザの満足度と生産性を向上させる可能性があります。
- **統合されたエコシステム:** すでに Microsoft 365 と Intune を使用している企業では、Webex を統合することで、追加の EMM ソリューションを必要とせずに、統一された安全なユーザエクスペリエンスを提供できます。

Microsoft Teams の Webex ビデオ統合



この連携により、[ビデオ端末で Microsoft Teams ミーティング](#)に参加できるようになります。Webex 端末およびその他の SIP 対応ビデオ端末との互換性はあります。これらの端末が Webex に登録されているか、オンプレミス インフラストラクチャに登録されているかに関係はありません。

さらに、Webex ビデオ会議端末で [WebRTC と CVI を有効にする](#) ことで、組織は Microsoft Teams ミーティングにシームレスに参加し、異なるコラボレーションプラットフォーム間のギャップを埋める機能を利用できます。この相互運用により、ユーザは Webex 端末から異なるプラットフォームのミーティングに直接アクセスできます。ハードウェアを切り替えたり、複数の電話会議システムを操作したりする必要はありません。合理化されたインテグレーションは、ミーティングに接続するために必要な時間と労力を大幅に削減するワンボタンでプッシュ (OBTP) 参加のような機能を提供し、ミーティング プロセスを簡素化します。Teams ミーティングへの直接参加を許可することで、Webex ユーザは使い慣れたワークフローに沿った一貫性のあるユーザ フレンドリーなエクスペリエンスを Webex 端末で享受できます。

お客様は、Webex ビデオ会議端末から Microsoft Teams ミーティングに参加できるため、既存の機器を最大限に活用できるため、投資収益率の向上につながります。この統合により、複数のコラボレーション プラットフォームをサポートするための新しいハードウェアやソフトウェアへの追加投資の必要性がなくなります。また、ミーティングのセットアップの複雑さを最小限に抑え、潜在的な技術的問題やサポ

ート要件を制限します。最終的にこの機能は、基盤となるテクノロジーに関係なく、チームメンバーが効果的にコラボレーションできるようにすることで生産性を向上させ、組織全体でより包括的で効率的なコミュニケーション環境を育むことにつながります。

Microsoft Teams へのビデオ統合の機能には以下が含まれます。

- **ボタン 1 つで参加:** Webex デバイスでは、スケジュールされた Microsoft Teams ミーティングの [参加] ボタンを表示できます。これにより、Teams ミーティングの参加プロセスは、Webex ミーティングに参加するのと同じくらい簡単になります。
- **カレンダーインテグレーション:** Webex デバイスは組織のカレンダーシステムと同期でき、Microsoft Teams ミーティングの招待状がデバイスのカレンダーに直接表示されることを確実にし、シームレスなユーザーエクスペリエンスを実現します。
- **ビデオ相互運用サービス:** Cisco は、Cisco Webex Microsoft Teams 用ビデオ統合のような CVI サービスを提供し、これらのデバイスを Teams ミーティングに接続できるようにします。このサービスは、Webex デバイスで使用するプロトコルと Microsoft Teams で使用されるプロトコルの間で変換することにより、コミュニケーションを促進します。

Microsoft Teams へのビデオ統合の利点は次のとおりです。

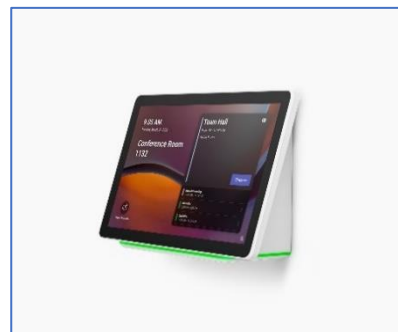
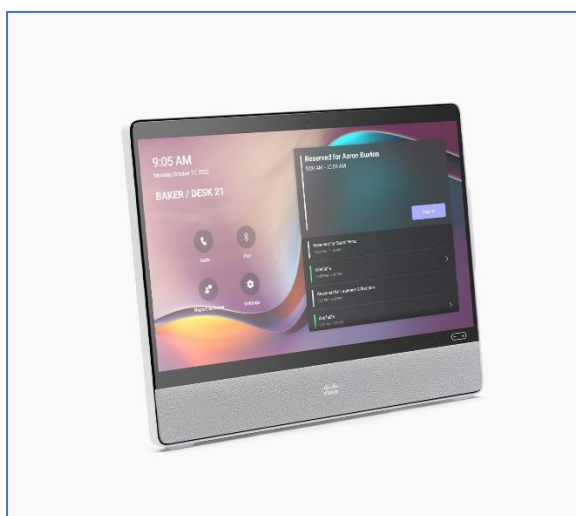
- **既存のハードウェアの活用:** 組織は既存の Cisco Webex ハードウェアを Teams ミーティングで使用でき、新しい機器を必要とせずに高品質のビデオと音声のエクスペリエンスを提供します。
- **クロスプラットフォームのコラボレーション:** 多くの場合、組織は複数のコラボレーションツールを使用します。WebRTC と CVI を有効にすると、ユーザーは Webex ビデオ デバイスから直接 Microsoft Teams ミーティングに参加できるため、異なるプラットフォームのユーザー間のシームレスなコラボレーションを促進できます。
- **簡素化されたミーティング エクスペリエンス:** Webex および Teams プラットフォーム全体での一貫性のある合理化されたミーティング エクスペリエンスにより、混乱を減らし、広範囲にわたるトレーニングの必要性を軽減します。
- **高画質ビデオと音声:** 優れたビデオと音声の品質で知られる Webex デバイスは、Microsoft Teams ミーティング中のコミュニケーションとコラボレーションを強化します。
- **強化された機能:** ユーザーは、インテリジェント カメラ フレーミング、ノイズ抑制、音声認識などの Webex デバイスの高度な機能を利用して、Teams ミーティングのエクスペリエンスを向上させることができます。

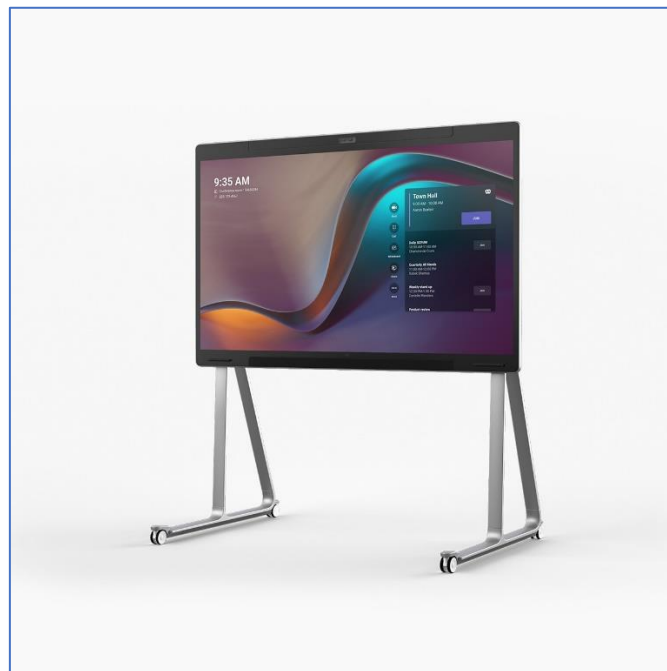
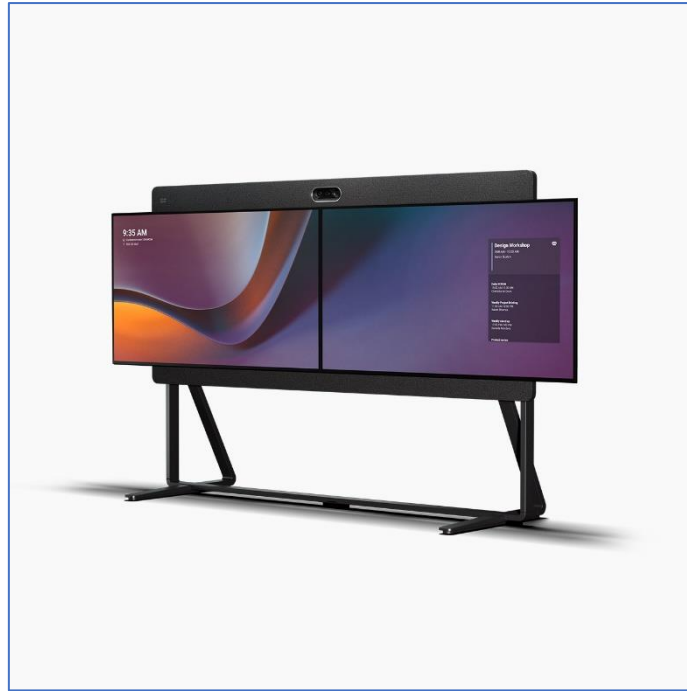
- **柔軟性と選択肢:** このハイブリッドサービスは、1 つのベンダーのエコシステムに制限されることなく、最適なコラボレーションツールを選択できる柔軟性を提供します。
- **リソース使用率の向上:** 企業は、Microsoft Teams を含むさまざまなミーティング プラットフォームとの互換性を確保して、会議室やビデオ会議端末を最適化できます。
- **相互運用性:** 異なるプラットフォームを使用するパートナー、クライアント、ベンダーとの効果的なコラボレーションがこのサービスを通じて可能になります。
- **スケーラビリティ:** Cisco Webex デバイスは、ハドル スペースから大きな会議室まで、あらゆる規模のミーティングに対応します。Teams ミーティングは、スペースや参加者数に合わせてスケーリングできます。
- **簡単な管理:** Webex デバイスは Control Hub で管理でき、集中管理が可能です。Microsoft Teams ミーティングに使用する場合でも同様です。
- **セキュリティ:** Cisco のセキュリティへの情熱は、高水準のセキュリティとデータ保護を維持する相互運用ソリューションにも表れています。

Webex と Microsoft Teams の両方を利用している組織では、これらの相互運用ソリューションが異なるプラットフォーム間のギャップを埋め、コラボレーションを強化します。この実装は、MTR モードの Cisco デバイスよりも優れたユーザエクスペリエンスをもたらします。これはデバイスの機能が Cisco プラットフォームにネイティブに組み込まれているためです。

これは、適応可能で互換性のある技術的ソリューションが不可欠なハイブリッド作業環境で特に価値があります。

MTR デバイス





Cisco のコラボレーション端末は、[Microsoft Teams ルーム \(MTR\) モード](#)で実行するように設定できます。これにより、ネイティブの Microsoft Teams コラボレーション端末に生まれ変わります。

これらのデバイスが Microsoft Entra ID および Microsoft Intune を利用するように構成されている場合、セキュリティ、管理容易性、ユーザ エクスペリエンスの面でいくつかの利点があります。

Microsoft Entra ID は、Cisco MTR デバイスに次の利点を提供します。

- **認証:** MTR デバイスは Microsoft Entra ID を使用してユーザとデバイスを認証します。ユーザは Microsoft Entra で管理される組織アカウントを使用してログインできます。
- **シングルサインオン(SSO):** Microsoft Entra ID の統合により、ユーザは Microsoft サービス全体で SSO 体験が可能になります。ログインします。
- **条件付きアクセス:** 管理者は Microsoft Entra ID により、ユーザの役割、デバイスのコンプライアンス、場所、その他の要素に基づいてアクセスを制限したり許可したりする条件付きアクセス ポリシーを実装して、セキュリティを強化できます。
- **セキュリティ:** Microsoft Entra ID には、多要素認証 (MFA) やリスクベースの条件付きアクセスなどの機能が含まれています。これらは MTR デバイスに適用してセキュリティを強化できます。

Microsoft Intune は、Cisco MTR デバイスに次の利点を提供します。

- **デバイス登録:** MTR デバイスを Intune に登録して、組織のフリート内の他のデバイスと一緒に管理できます。
- **コンプライアンスポリシー:** Intune では MTR デバイスにコンプライアンスポリシーを強制し、組織のセキュリティ標準に準拠させることができます。準拠していないデバイスは、会社のリソースへのアクセスを制限できます。

全体として、Microsoft Entra ID と Intune の両方は、MTR モードの Cisco デバイスに次の利点を提供します。

- **強化されたセキュリティ:** Microsoft Entra ID および Intune との統合により、デバイスとデバイスがアクセスするデータの両方を保護するための複数レイヤーのセキュリティが提供されます。
- **コンプライアンスとレポート:** Intune には、デバイスのコンプライアンスを監視し、監査や規制コンプライアンスに役立つレポートを生成するためのツールが用意されています。
- **ユーザ エクスペリエンスの改善:** SSO やその他の Microsoft Entra ID 機能により、MTR 端末へのアクセスと使用がより便利で安全になりました。
- **集中管理:** Microsoft Entra ID と Intune はどちらも、デバイス、ユーザアクセス、アプリケーションを集中管理できるため、複雑な分散環境を管理することができません。

オンプレミスの Active Directory を Microsoft Entra ID および M365 に移行する方法

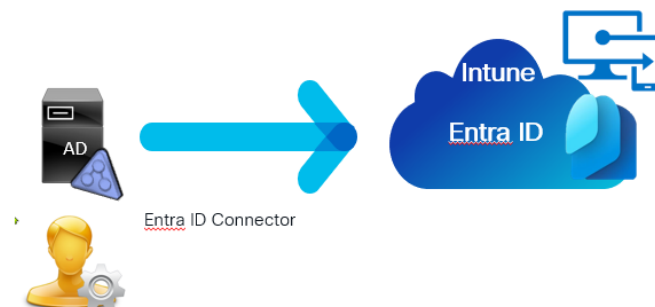


ほとんどの顧客は現在、オンプレミスに基づいたコラボレーション、ID、およびデバイス管理戦略を持っています。しかし、彼らは現在、クラウドへの移行を検討しており、これらのサービスをオンプレミスで維持するのではなく、クラウドから利用することを目指しています。

Cisco と Microsoft は、人とデバイスの最高の ID 管理に加えて、市場最高のコラボレーション ソリューションを活用することで、この移行を促進する適切な戦略を持っています。

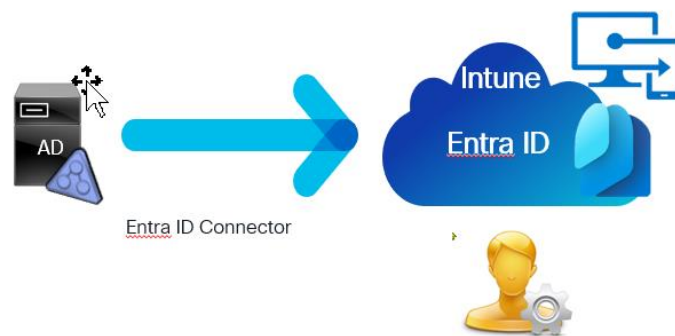
Cisco と Microsoft は、コラボレーションと ID サービスをクラウドに移行したいと考えている組織、特に現在主にオンプレミスで運用している組織に、シームレスな移行を実現する戦略を提供します。

ユーザ、グループ、デバイス管理をクラウドに移行するための Microsoft の戦略には、次の手順が含まれます。



ステップ 1 - Microsoft は、ほとんどの組織で最初のステップとしてハイブリッド ID アプローチを採用することを推奨しています。 このアプローチにより、Microsoft Entra ID Identity Connect などのツールを使用して、オンプレミスの Active Directory (AD) を Microsoft Entra ID と同期することができます。 このハイブリッド設定により、ユーザはオンプレミスとクラウドの両方のリソースへのアクセスを提供する単一の ID を維持できます。

この段階では、顧客はまだ Active Directory でオンプレミスの ID とデバイスの管理を行います。

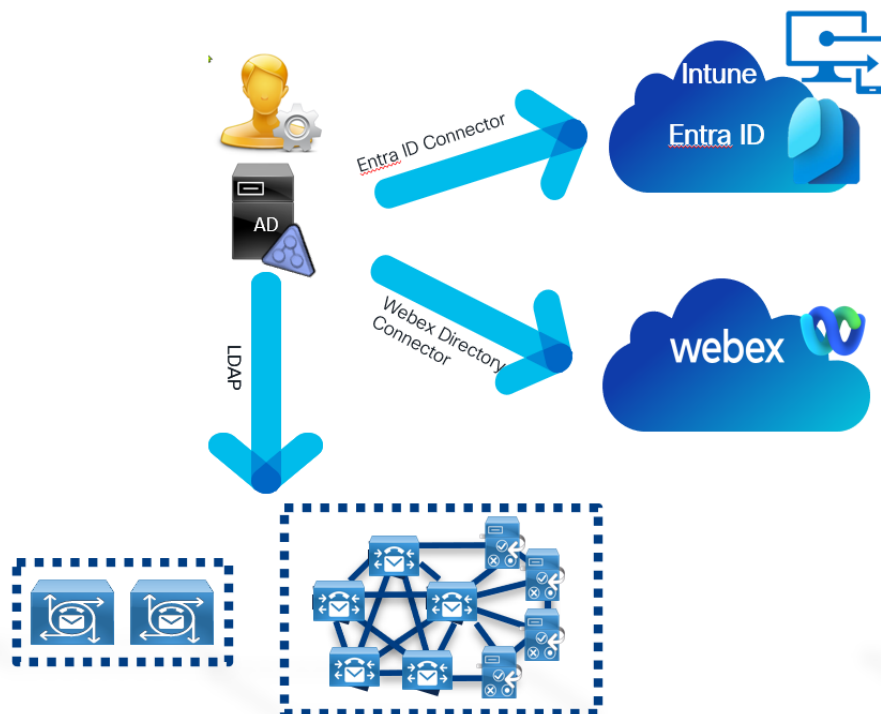


ステップ 2 Microsoft では、ある時点で、顧客が Microsoft Entra ID と Intune の機能をクラウドでの ID とデバイスの管理に活用し始めると予測しています。 この段階では、Active Directory は主に維持されます。これは、クラウドベースのソリューションを利用できないレガシー アプリケーションのためです。 この移行はクリーンアップ プロセスの機会でもあります。Active Directory を何年も使用すると、使用されなくなったレガシー オブジェクトが蓄積することが多いためです。このようなクリーンアップを実行するのに最適な時期です。



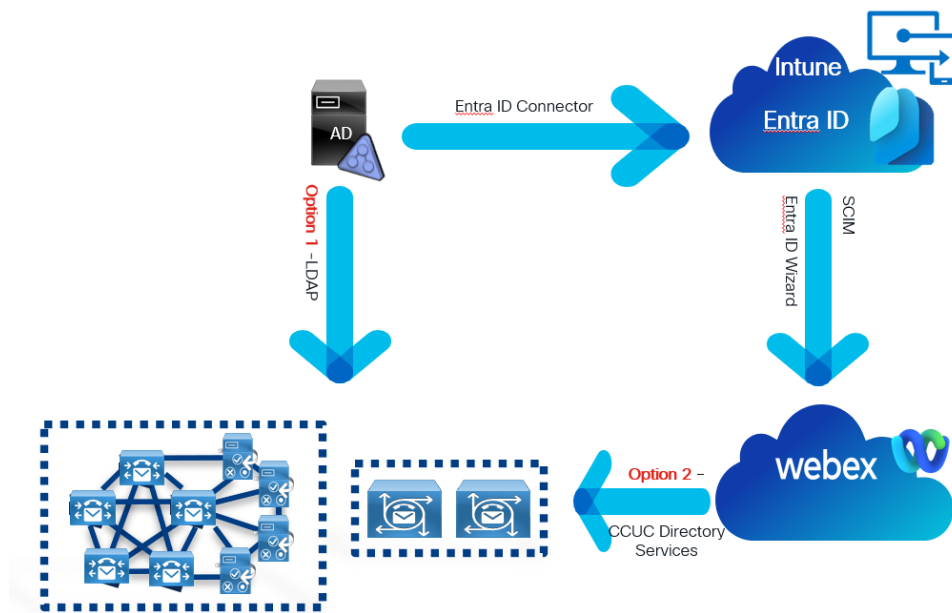
ステップ 3 - 徐々にデコミッションするプロセスを経て、最終的にはオンプレミスの Active Directory は必要なくなります。 コラボレーション ツールを含むすべての IT アプリケーションは Microsoft Entra ID および Intune を活用するためです。

Identity に従う、コラボレーションをクラウドに移行するための Cisco の戦略:



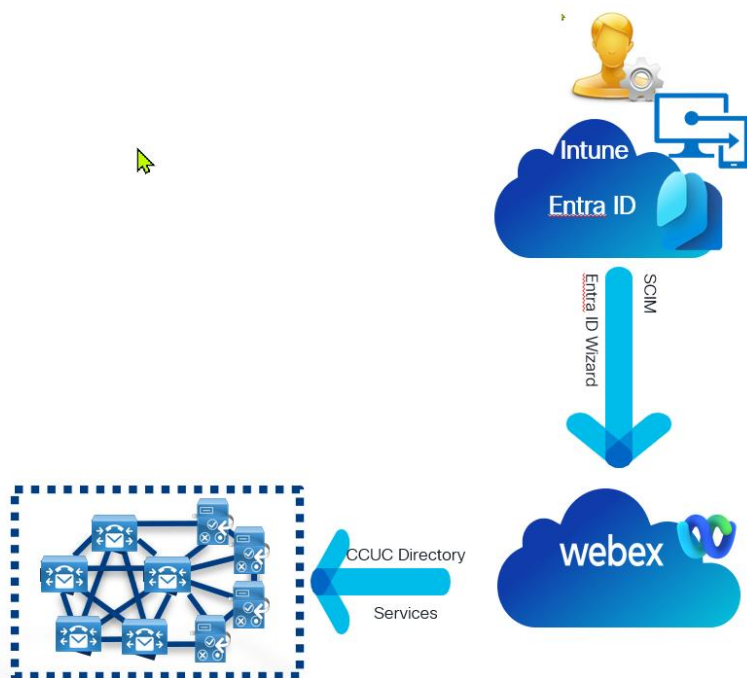
ステップ 1 Cisco もクラウドへのコラボレーションソリューションの移行を進めています。これは Microsoft の ID 管理と同様です。しかし、お客様の IT インフラストラクチャにおいて Active Directory が信頼できる唯一の情報源であることを考慮し、Cisco は Webex のソースとして使用します。これにはユーザ、グループ、連絡先、端末情報の Webex への同期が含まれます。同期は Webex Directory Connector と呼ばれるサービスによって行われます。

Cisco のオンプレミス コラボレーション システムは引き続き Active Directory を使用します。

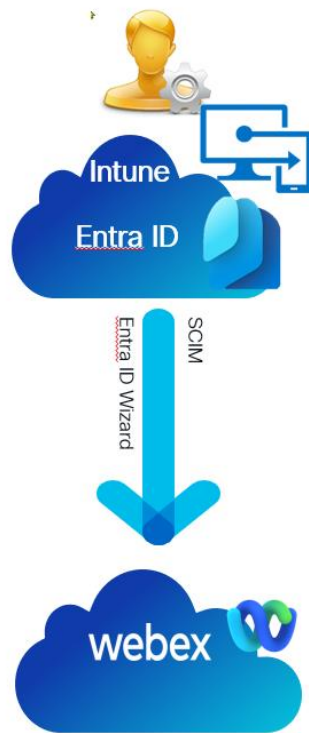


ステップ 2 - 顧客の組織内のユーザの管理が Microsoft Entra ID を活用したクラウドによって推進され始めると、Cisco のコラボレーション製品も次の場所からユーザ、グループ、連絡先、デバイスの情報を調達し始めますクラウドベースのコラボレーション製品の場合はクラウドです。

オンプレミスのコラボレーション製品の場合、オブジェクトをオンプレミスのディレクトリから取得するか、クラウドから取得するかを決定する必要があります。これは、お客様がどのようにソリューションを構築したかによります。ある時点でオンプレミスのコラボレーション製品がクラウドにのみ存在するオブジェクトを (Microsoft Entra ID および/または Intune 経由で) 必要とする場合、同期はクラウドから開始する必要があります。ただし、オンプレミス製品もクラウドに移行しており、これらの製品で新しいユーザが作成されない場合、変更は必要ありません。



ステップ 3 - この時点では、Active Directory は存在していません。つまり、すべてのユーザ、グループ、連絡先、およびデバイスをクラウドから同期する必要があります。 オンプレミスのコラボレーション システムにはハードウェア デバイスが含まれるため、これらすべてを移行または置換するには時間がかかる可能性があります。 そのため、コラボレーション製品のクラウドへの移行には長期間かかる場合があります。



最終的には、顧客は完全にクラウドベースの環境になり、アイデンティティとコラボレーションは完全にクラウドから提供されます。